

# HEART to HEART



令和4年12月15日(木)発行

清北小の2学期は会話科や外国語活動・外国語科に関する行事が盛りだくさんです。今回は、10月から12月上旬にかけて行われた行事について紹介します。

## 少人数のよさを生かした外国語活動 (4年生 外国語活動研究授業)

10月19日に、宇都宮大学より指導者を招き、4年生の外国語活動の研究授業を行いました。

文房具を持っているかどうかを尋ねる活動を通して、「Do you have ~?」や「Yes, I do./ No, I don't.」の言い方を学ぶ単元の授業です。この時間では、いろいろな文房具の言い方を復習したあと、他の学年の担任の先生方に向けて、「便利な文房具セット」を考えて作る活動をしました。各担任の先生から、「こんな文房具があるとうれしいな。」というメッセージを受け取り、やる気たっぷりで文房具のお店へと買いに行きます。「Do you have a ruler?」「Yes, I do.」「How many?」と会話を続け、文房具セットを完成させることができました。他の学年の担任の先生を思い浮かべながら楽しそうに活動できる、少人数の学校の良さが表れた授業になりました。



## 3, 4年生の朗読発表

11月5日に3,4年生が「きよきた秋祭り」の中で朗読発表を行いました。本年度も小田島先生に朗読の心得などを教えていただきました。

「外郎売(ういろうり)」の発表に続き、3年生は栃木の民話を3作品、4年生は「ごんぎつね」の作者である新美南吉さんの物語を4作品発表しました。

3年生は、姿勢や基本的な声の出し方に加え、抑揚や速さ、視線など、聞いている人に話の内容が伝わるような「語り」をするようご指導をいただきました。本番では、練習の成果が発揮され、全員での「外郎売」、グループごとの民話を上手に発表し、子ども達が達成感を味わうことができました。「相手を尊重する」というコミュニケーションの基礎ともいえる部分を学ぶことができました。

4年生は、昨年学習したことに加え、聞いている人が物語を想像できるように、間の取り方や抑揚の付け方など、役になりきる読み方をご指導いただきました。本番では、一人一人が練習の成果を発揮して、ナレーターや登場人物になりきって発表することができました。



## みんなで作り上げた「夢育劇場」

12月3日に、全校児童による劇、ミュージカルを発表する「夢育劇場」を行うことができました。感染症対策により、1, 3, 5年生の創作ミュージカルの部と2, 4, 6年生による創作劇の部に分け、鑑賞者も入れ替え制で行いました。

1, 3, 5年生のミュージカルは、5年生が担当する曲が一曲追加され、ストーリーにも登場人物にも変更がありました。今年、最後のミュージカルを披露する5年生は、新曲の歌詞やダンスなど、覚えることがたくさんありましたが、練習を積み重ね、徐々に自信を高めていきました。稲見けい子先生、朋子先生にご指導いただき、5年生はせりふがないときの演技の工夫、3年生と1年生は、掛け合いの場面でより感情が表れるような動きについて練習するなど、よりよいミュージカルをみんなで目指すことができました。



2, 4, 6年生の劇は、6年生のみんなで考えを出し合って、ゲームをしているうちに現代から江戸にタイムスリップする場面を新たに取り入れました。プログラミングを使いゲーム画面を再現するなど、工夫を凝らして行うことができました。山縣先生、戸田先生から、4・6年生は台詞の言い方や、立ち位置、表情などの演技について、2年生は激しい波の演技方について教えていただきました。練習を重ねるうちに自信をもって演じることができるようになり、みんなで協力して最高の劇を作り上げることができました。

劇、ミュージカルとも児童の頑張り認め、励ましていただいた保護者のみなさまのおかげで大成功を収めることができました。アンケートへのご協力や感染症対策のための人数制限のお願いに、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。

## 2年生ふれあい楽習(坊主めくり, 百人一首)



12月8日(木)に、地域や保護者の方とふれあいながら学ぶ「板戸ふれあい学習」の一環として、ふれあい楽習を行いました。

2年生のことはの時間では、宇都宮市にゆかりのある百人一首について知り、少人数のグループに分かれて、「坊主めくり」を楽しみました。「坊主めくり」は、読み札の絵を使った簡単なルールで、最後まで勝敗が分からないため、子どもから大人までドキドキしながら一緒に遊びました。その後は、少ない枚数で行う、かるた取りにチャレンジしました。

児童の振り返りでは、「大人の人と坊主めくりや百人一首で遊ぶことができて楽しかった。」や、「自分も家族に教えて一緒に遊んでみたい。」などの感想があり、楽しいひと時となったことが伝わってきました。ご参加いただいた皆様には、講座へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。